

## VR技術による学習支援



※VR警備員教育システム開発中画面(素手による後進誘導要領)

交通誘導警備業務2級検定 学科対策アプリ  
「警備マニア」6月29日(月)  
リリース致しました!

使用方法など会員様に個別ご案内致します。

## ◆VR警備員実技教育システム

2020年10月29日(木) 30日(金) 防災総合展2020出展予定

新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、身の回りでもにわかには生活様式や仕事の方法が変化しております。

NPO法人ランドマークでは、ひきこもり支援のほかに「VR技術を活用した学習支援」を行ってまいります。

今回は、大詰めを迎えている「警備業向けeラーニングシステム」の開発進捗を紹介させていただきます。

このシステムの大きな特徴としましては、大きく3つからシステム構成がなされています。

## 1.「VR警備員実技教育システム」現在実写コンテンツを追加し、より臨場感あるものを作成中。

これは、警備業法における新任・現任教育といった法定教育、及び交通誘導警備業務2級検定実技に対応した内容です。

企業で想定される1対1、又は1対複数といった研修方式の中で効力が発揮されるものとなっております。

## 2.「交通誘導警備業務2級検定対策学科アプリ」6月29日リリース!

スマートフォン等を通じてダウンロードし、過去問題等を基にした学習を資格取得を目指す個人がいつでも利用可能で、学習効果を高め、全国的に特に合格率が低い学科試験対策が可能となります。

## 3.上記で行った学習データを集約する「モニタリングサーバー」

企業等において、受講者データを管理して、試験対策等に活用したり、個人情報管理を行うことが出来るものです。

以上が概要となりますが、警備業界初の学科・実技に特化したeラーニングとして永続的なユーザー満足度向上を目指していますので、ユーザーから情報・意見を収集したうえでアップデートしていきたいと考えております。

こちら落としは、来る2020年10月29日(木)・30日(金) 10:00~17:00インテックス大阪で開催される【防災防災総合展2020】(<https://www.bohanbosai.jp/outline/>)に参加予定ですので、ご期待ください。

末筆ではありますが、新型コロナウイルスの早期収束と、皆様の安全と健康をお祈り申し上げます。

非営利活動法人ランドマークが活動を始めてから早半年が経過しようとしています。その中で会員の皆様には、原稿のご依頼をさせていただいたり様々な負担をお願いしております。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、政府が示す「新しい生活様式」であったり、様々な場面でアプローチを変えざるを得なかったりと、皆さんもご苦労が多いことかと思えます。この「警備戦国通信」では、事業運営の中で他では得られない情報を会員の皆様と共有しながら、次世代に示す未来を創り上げていくことを目的に発行させていただいております。今後皆様からの実のある情報や意見を頂きながら本法人が成長していくために、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 編集後記

## 警備戦国通信

KEIBI SENGOKU JAPAN

2020.07  
Vol.02  
6月発行号

  
LANDMARK
   
NPO法人 ランドマーク


## Hikikomori x LANDMARK

NPO法人ランドマーク(以下、当法人)は、全国的に増加傾向にあるひきこもり青年等の就労困難者を対象として、就労した際の教育資源の提供や、地域ごとに異なる就職事情を勘案した上で、全国の会員企業による情報交換、及びその共有を目的とし、会員企業の皆様においてはご賛同いただき、活動しております。まずは、サービス業の中でも特に有効求人倍率が高く、慢性的な人手不足が続く「警備業」にスポットライトを当て、全国100万人強と云われる「ひきこもり者」、このマッチングは可能か、を検証していきたいと考えます。その為には、「ひきこもり」とはそもそも何なのかを知っていく必要があります。当法人の事業運営の一環として、今まさに「ひきこもり」問題と接している個人・関連団体に接触し、情報を収集、様々な文献等と照らし合わせていきます。実態として、の情報を会員企業の皆様と共有し、「ひきこもり者」、及び「会員企業」相互繁栄の観点から、「新しいマッチングの仕組み」を見出し、実践していき、この世の中に一石を投じる。夢のあるお話だと思います。今後この会報において、「シリーズHikikomori」と題し、数回に渡り、皆様と情報を共有し、その実態を見つめていきたいと考えます。



東京から地方へ、地方から東京へ。

警備戦国Japan

働くプロ警備員の為の転職サイト

  
LANDMARK

特定非営利活動法人 ランドマーク

〒960-2261 東京都杉並区西荻北3-1-9 3F

Tel. 03-4213-6666

Fax. 03-5382-0225

mail. form@npo-landmark.com

コロナに負けるな! 安全対策



町野 壮 株式会社ネクストイノベーション

6月に入るにつれ気温が25度から30度ぐらになり、熱中症になる危険性が増してきました。自社の取り組みとしまして、下記の項目にあげさせていただきます。  
 ①塩あめ、塩タブレットの配布②首筋の日差し避けの着用③警備員待機室に冷蔵庫を設置し、飲み物を自由に取れるように完備④警備員待機室の温度管理⑤万が一の時のための連絡体制の完備⑥熱中症の危険性についての講習会の開催  
 特に特別なことはしていませんが、上記6項目が弊社としての取り組みとなります。また、この他に、体調が悪い隊員や持病のある隊員については個人的に体調の聞き取りを行い、その人にあった対策ができるようにしています。

コロナに負けるな! 安全対策



北村 容子 株式会社きたむら

6月に入りまもなく梅雨の時期を迎えるに当たり、気温、湿度が上がる事から業務中にマスクを使用している場合に人ととの一定の距離が保てる場合はマスクをずらす等の対応し熱中症に気をつけて従事すること  
 例) 業務中人がいない場合はマスクをずらす。  
 人が近づいてきた場合は必ずマスクの着用をする  
 各都道府県に応じて営業自粛緩和に伴い、緩和処置が講じられる中以前からお伝えしているように3密を避けた行動をお願い致します。また、本日東京アラートが発動されますので感染予防にしましては手洗い、うがい、手指の消毒の徹底をお願いします。

Hikikomori x LANDMARK ~ 全国100万人のひきこもり者の社会参加を目指して。警備業編 ~

「シリーズ Hikikomori」 Part. 1

日本と世界の「ひきこもり」事情の差異

「ひきこもり」は、欧州や韓国など今や世界中で社会問題化しています。とりわけ「ひきこもり先進国」である日本の状況は、ずば抜けています。報道等でも目にするとおり、2019年内閣府発表の40-64歳を対象とした「ひきこもり」者数の推計は61万3000人。15-39歳(厚労省発表の若者年齢の定義)の推計は54万1000人。国内の総数は110万人を超えています。100人に一人の割合で「ひきこもり」を経験、又は現在進行形であり、増加の一途をたどっています。

日本の「ひきこもり」の定義

厚労省の定義では、「基本的に長期間自宅から出ることが出来ないでいる状態のこと」で、単一の疾患や障害の概念ではなく、「さまざまな要因によって社会的な参加の場が狭まり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態」とされています。精神医学的には、「社会的隔離の中でも、日本の文化に特有な症状、いわゆる、文化結合症候群の一つ」とされています。

日本では、諸外国とは一線を画す「本音と建前」という隔離された二つの自分があることが、普通に認められているように感じ、また、むしろ、この分離が望ましいとされているくらいだという実感があります。

もちろん世界中にも、ある程度分離はあると思うが、ここまではっきりと分かれた二つの自分を、意識的に操る文化は珍しいという意見もあるそうで、これは「内と外」を分ける文化ともつながることを意味し、家、会社、学校、地域、あるいは、国。内と外の間、厚く高い壁があるかのようです。また、人々の関わりも固定的で、壁の内側に限定されがちです。壁の外側の人と、直接コミュニケーションを取ることは少ないように感じます。

「家から出ない」=「ひきこもり症状」?

文化による違いということで、ここで現在社会問題化し始めているイタリアの「Hikikomori」を紹介します。

①ネットゲーム依存により、若者がゲームにのめり込みすぎて、家の外に出られなくなる事例が増加。※2019年、WHO(世界保健機関)がゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を、精神疾患と認定。②不景気と特有の家族文化。③「内」と「外」を隔てる、社会的分離の形態。近年、イタリアでは若者の失業率が高く、外で働く機会を失っている。また、親子のつながりがとても近いため、学校を卒業しても親と一緒に住む人が多い。仕事がないためにお金がなく、友達付き合いもできない。行動範囲がかなり狭く、結果として引きこもる。

イタリア人初の精神科医パントー・フランチェスコ氏のインタビューより一部抜粋

次号 Part.2につづく

コミュニティサイトの運営



東京から地方へ、地方から東京へ。

現在就業中の地域から、日本全国(加盟47社)の警備会社へ就業をスムーズに行うポータルサイト  
 内閣府地方創生推進交付金の活用を視野に、加盟社と求職者を結ぶコミュニティを形成して参ります。

警備戦国Japan加盟社様のサイト掲載メリット

※Google Ad Grants とは、毎月最大 \$10,000(約100万円) 分の広告を無償で広告出稿できるプログラムです。  
 Google が「社会貢献の一貫として NPO法人向けに提供する「Google For Nonprofits」サービスの一つです。

申請中  
 Google Ad Grants  
 広告開始予定

月間平均 4000人アクセス /30,000ページ閲覧

警備バイトするならまず見るサイト  
 Part-time Security Guard

SEO (流入を増やす為の) ポータルサイト  
<http://keibi-baito.jp>

警備戦国Japan

2020年4月スマホ化対応  
 アクセス数向上に向けてリニューアル完了

警備バイトするならまず見るサイトが土台にあります。  
 直リンクで繋がっているので検索エンジンに有利に働きます。

indeed®  
 Indeedとは求人情報の検索エンジン

KEIBIWORKS  
 produced by  
 警備バイトするならまず見るサイト  
 Part-time Security Guard

indeed®

※現時点(2020年5月)では無広告にて表示。  
 掲載は indeed が操作しますので、  
 お約束できるものではありません。  
 今後会員数増加に伴い広告費を投じて展開を狙う。

戦国Japanサイトに記入いただいた求人情報を  
 「KEIBIWORKS (indeed 求人サイト)」へ掲載させます。

Google広告申請進捗

1. Google for Nonprofits の登録 <https://www.google.com/intl/ja/nonprofits/> [完]

2. techsoup の登録・並びに審査 <https://www.techsoupjapan.org/> [完]

3. Ad Grants 事前審査手続き [2月より申請開始 / 現在審査手続き中]

現在コロナ騒動の影響にてGoogleからの審査手続きに遅延が生じております。